

大津百町瓦版

大津・町家・まちなか・いろいろ情報

秋 季 号 [No. 38]

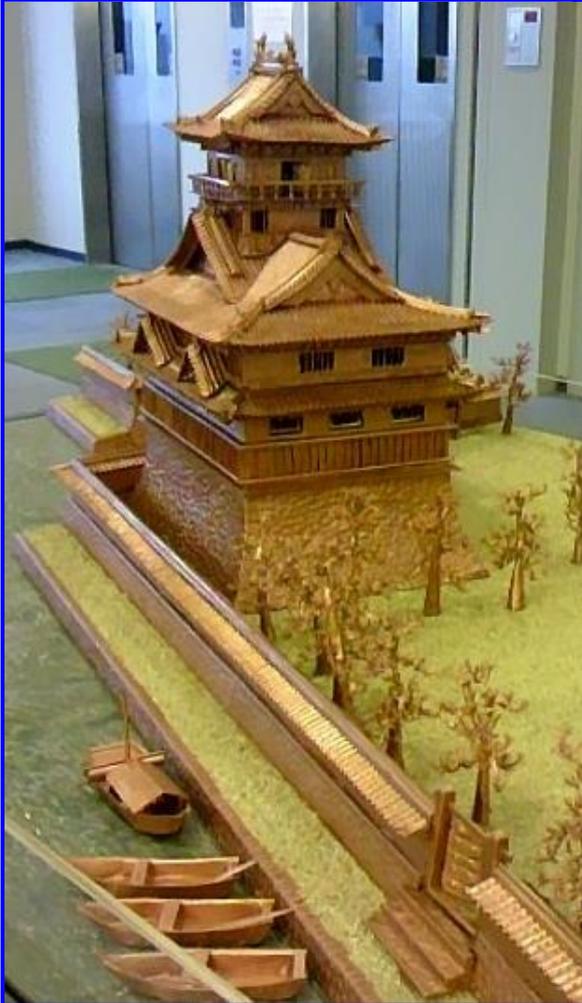
2018年 10月

発行 大津の町家を考える会

大津市中央1丁目8-13

TEL・FAX 077-527-3636

Email: otsu.machiya@gmail.com



大津城とはどんな城

大津城は、羽柴（豊臣）秀吉の命により坂本城の廢城に伴って、天正一四年（1586）頃に現在の浜大津周辺に建設された城です。初代城主は、最後の坂本城主であった浅野長吉です。浅野の次の城主は、増田長盛で、後に秀吉の五奉行の一人になる人物です。その後、城主は新庄直頼、京極高次と続きます。ところが関ヶ原の戦いが勃発して、高次は妻のお初が浅井長政の次女であったことから（長政の長女・茶々は秀吉の側室、三女のお江は徳川秀忠の妻）、難しい立場に立たされました。

京極高次は、一旦は西軍に属し北陸方面に向かいますが、突如、東軍に寝返りを決め、海洋から大津城へ帰還して三千人の兵と籠城。大津城攻防戦で毛利軍の率いる西軍約一万五千人の大軍を大津に八日間足止めしました。この西軍の足止めにより西軍は関ヶ原の合戦に合わずこのことが勝敗を左右したといわれ、大津城は歴史的に重要な役割を果たしたのです。

勝利した徳川家康は大津城に入って戦後処理を行い、長等山から砲撃射程に入るといふ理由で九ヵ月後には大津城は廢城。代わりに膳所城を築き、城門等が移築されました。最後まで残った大津城の天守閣は彦根城に移築されました。膳所城下は江戸時代末まで城下町として賑わいましたが、大津は天領として代官が置かれ商人の町として賑わったのです。

前号は膳所城を掲載、同じ山極千三氏が作られた大津城模型（浜大津スカイプラザ6階に）があるとのことと秋季号に掲載。解説は『萬塾』での樋爪元歴史博物館館長のお話と「びわ湖大津観光協会」発行のリーフを参考にしました。【会員 雨森】